

学校目標・経営方針	「進取の精神」のもと、自ら思考し実践する、これからの社会で輝ける生徒の育成
-----------	---------------------------------------

本年度の重点目標	確かな学力の定着を図るとともに、主体的に社会を生き抜いていく生徒の育成	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	多様性を認め合い、協働しながら学び活動し続ける生徒の育成		B	概ね達成できた。(6割以上)
	地域・社会とのつながりを通じて、社会に貢献できる生徒の育成		C	不十分である。(4割以上)
	教員の働き方改革に関する取組を推進する。		D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価				年度末評価(2月6日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	確かな学力の定着を図るとともに、主体的に社会を生き抜いていく生徒の育成	<p>学習者を主体とした授業づくり、ICT活用の視点からの授業改善に取り組み、生徒の基礎学力と学習習慣を定着させる</p> <p>新学習指導要領を確実に実施し、各教科で評価方法の充実に取り組むとともに、生徒の自己肯定感を醸成させる取り組みを行う</p> <p>「やまなしスタンダード」の実践に向け、相互授業参観を通して教科を超えて学び合い、魅力ある授業づくりに取り組む</p>	<p>・授業アンケート ・学校評価アンケート</p> <p>・観点別評価 ・通知表への表記方法</p> <p>・相互授業参観の状況 ・授業アンケート ・学校評価アンケート</p>	<p>○ICTの活用については、教員、生徒ともに肯定的な回答が80%を超えている。また、学習者を主体とした授業づくりについても、教員、生徒ともに肯定的な回答が75%以上である。</p> <p>○授業内容や指導方法、評価方法について教科担当者間で話しているとの回答が75%で、観点別評価が明確に伝わっていると感じている生徒は75%である。</p> <p>○相互授業参観を年間2回実施したほか、10月の公開研究授業や初任者研修として実施した研究授業の時に参観を呼びかけた。</p>	B	<p>○ICTの活用については高評価だが、大型提示装置の設置と活用がなされることでさらに改善を進めていきたい。</p> <p>○学習者が主体となる授業づくりについての取組が進む中、授業に充実感があると感じている生徒が他項目に比べ低いのが課題である。</p> <p>○「やまなしスタンダード」の視点から、学んだことを別の場面で使うことや家庭学習と授業とを有機的に結びつけるといった学習者主体の取組について改善していきたい。</p>
2	多様性を認め合い、協働しながら学び活動し続ける生徒の育成	<p>各授業において、主体的・対話的で深い学びを推進し、他者と協働して問題解決に取り組む場面を設ける</p> <p>学校行事・生徒会活動・部活動などを通して、多様な立場の人たちと関わり合い、良好な人間関係を形成できる場面を設ける</p> <p>教員間の連携や保護者との連携を通して、生徒の良好な規範意識を育成する</p>	<p>・授業アンケート</p> <p>・学校行事の計画実施 ・部活動の活性化</p> <p>・教員間の情報共有 ・保護者への情報発信</p>	<p>○「深化×進化＝真価(魅力ある学校づくりへ)」を研究主題に据え、授業改善推進委員会を中心に学校全体で取り組んだ。生徒が主体となる活動をしていると回答した生徒は90%を超えている。</p> <p>○学園祭や理髪店などの行事を通して、多様な立場の人とつくり上げる場面を設けた。また、良好な人間関係を形成するための講演会を1年次を対象に実施した。</p> <p>○e-メッセージを通して教員と連絡・連携が取れていると感じている保護者は85%であった。</p>	B	<p>○各授業において教員は工夫した授業を展開している。教員間で情報を共有し、連携して授業改善に取り組むことで、生徒の主体的な学習につながっていききたい。</p> <p>○新型コロナウイルスが5類に移行したことで、感染症対策を講じつつも生徒が主体となって企画する体制を整備したい。</p> <p>○情報を提供するタイミングをもう少し早くしてほしいとの声が保護者から寄せられているので、見直しをもって取り組みたい。</p>
3	地域・社会とのつながりを通じて、社会に貢献できる生徒の育成	<p>「峡南地域学」「総合的な探究の時間」「LHR」等を活用し、外部機関と連携しながら職業教育を推進すると共に、「青洲学」を通して地域を知り、将来の地域貢献への基盤をつくる</p> <p>挨拶の励行や生活習慣の指導を通じて、将来の社会生活における良好な人間関係づくりの基盤をつくる</p> <p>生徒や保護者・地域への情報提供を充実させ、生徒の進路意識の向上と、保護者・地域の学校への理解を図る</p>	<p>・計画的な実施 ・外部との連携 ・地域社会への関心度</p> <p>・校内での挨拶の状況 ・服装、頭髪、遅刻状況等の様子</p> <p>・各種便りの充実 ・HP等の充実</p>	<p>○「青洲学」におけるフィールドワークやグループワーク、外部講師を招いての講演会を通し、地域の課題や連携の大切さを深める機会を設けた。また、ボランティア活動を通して地域を考える機会となった。</p> <p>○挨拶やマナーなど社会の一員になるための指導が適切に行われたと回答した生徒は80%いた。また、朝の登校指導等を通して挨拶の実践を奨励した。</p> <p>○学校内の様子をHPに掲載しているが、学校生活の様子がわかって良かったと回答した保護者が複数いた。</p>	B	<p>○「青洲学」は4年目を迎え、地域を知り、将来の地域貢献を考える機会となっている。峡南地域の高校として地域とともにあり続けられるような改善をしていきたい。</p> <p>○挨拶や服装・頭髪の整備に、生徒が主体的に取り組めるような教育活動を実践していきたい。</p> <p>○高校での生活の様子をHPで知る保護者が一定数いるので、掲載の頻度を含めてより一層の充実を図りたい。</p>
4	教員の働き方改革に関する取組を推進する。	<p>勤務時間管理の徹底と適切な勤務時間を設定し、勤務時間や健康管理を意識した働き方を徹底する。</p> <p>「きずなの日」(放課後に部活動や会議等を実施しない日)など、生徒と向き合う時間を確保する。</p> <p>部活動ガイドラインを遵守した部活動運営に取り組む。</p>	<p>・勤怠管理 ・学校評価アンケート</p> <p>・学校評価アンケート</p> <p>・学校評価アンケート</p>	<p>○毎日の勤務時間をソフトで適切に管理する割合は85%だが、月45時間以内の上限を超えている教員は年間平均で55%である。</p> <p>○「きずなの日」は毎月2回ずつ付け、併せて定時退校日としている。生徒と向き合っていると回答した教員は50%、定時以降早めに退校した教員は60%であった。</p> <p>○部活動では、合理的かつ効率的・効果的な指導を行っていると感じた教員は75%いた。</p>	B	<p>○ストレスチェックの結果は全国平均より下回っているが、県内平均より上回っている。健康管理を意識した働き方に取り組んでいきたい。</p> <p>○勤務時間の管理に対する教員の意識は高い。その中で生徒と向き合う時間の確保に向けての取組は継続していきたい。</p> <p>○創立4年目だが、多くの部活動で成果をあげている。部活動ガイドラインを遵守しながら取り組むための工夫をしていきたい。</p>

学校関係者評価	
実施日(令和6年2月16日)	
評価	意見・要望等
4	<p>・学校評価の結果から、生徒が主体となる学習活動が3つの学科共に高い評価となっています。先生方がICT機器を有効活用したり、話し合い活動を取り入れたりと、生徒の主体性や協働性を重視した授業改善に日々努めている成果であることが伺えます。一方、進路希望調査では、約4割の生徒が国公立大学への進学を希望しています。目標となる指標を設定し、実現に向けての取組及び体制を整えることで、生徒の願いに近づきましょうお願いします。</p> <p>・ICTの活用など、一定の効果をあげているものと理解します。子供達を主体とした授業づくりにさらに工夫され、自己肯定感を高め、社会を自らの力で生き抜いていける、そんな人材の育成に努めてください。</p> <p>・根気強く高校で学ぶ基礎学力の必要性を説いてください。</p> <p>・意見交換等だけでなく、保護者と教員が共に取り組む機会があると家庭と学校の温度が更に近くなる気がします。</p>
4	<p>・中学校現場においては、人との関りがうまくできずに、集団になじめない生徒は相当数います。そのような生徒が全日制高校に進学するケースも増えてきており、青洲高校においても、ご苦労をおかけしているものと思います。不登校による進路変更を防ぐためにも初期段階で中学校との連絡を密にし、家庭的な状況や本人の特性についての情報交換を行うことは有効であると考えます。</p> <p>・様々な行事や情報を通して、互いの理解を深めている様子が伝わってきます。学校と保護者の連携を深化させる中で、更なる生徒の支援を願います。</p> <p>・コミュニケーション能力の育成にさらに努めてください。</p> <p>・生徒が多様であれば保護者も多様性ですが、先生方も多様性であってよいと思います。</p>
3	<p>・服装や頭髪といった校則の見直しを、生徒も主体的に参加する中で検討し、決定していくことが求められていると思います。見直しに向けては、多くの段取りを踏まなければならず、労を要しますが、先送りせずに、正面から向かい合うことが必要だと考えます。</p> <p>・青洲学など地域との交流は確実に拡大していると感じています。その輪を少しずつでも大きくしていける様に堅実な推進に期待しています。</p> <p>・社会に目を向けることの重要性を生徒に考えさせる工夫をしていただきたいと思います。</p> <p>・多様性ある現代社会において、卒業後すぐに就職する学生においては、校外の活動を部活に相応する時がくればと思います。</p>
3	<p>・公立小中学校長会では、休日部活動の地域移行を、令和7年度までの可能限り早い時期に実現を目指すことを決めました。実現に向けては教員の負担軽減という視点と生徒にとっての多様な学びの保証という2つの視点で進めようと考えています。しかし、教員不足が深刻化する中、働き方改革の推進は必須であり、教職員のウェルビーイングの向上を図らねばなりません。高校教育においても一歩踏み込んだ取組が今こそ必要ではないでしょうか。</p> <p>・教員の働き方改革と部活動の両立など難しい面もありますが、将来にわたって確かな教育が展開できることを願います。</p> <p>・心身ともに健康で仕事に打ち込める環境を職員全体で作ってほしいと思います。</p> <p>・全ての努力が報われることは少ないかもしれませんが、健康に留意してください。</p>

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。